

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成28年8月15日

**【四半期会計期間】** 第42期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

**【会社名】** 伊豆シャボテンリゾート株式会社

**【英訳名】** Izu Shaboten Resort Co.,Ltd

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 北本 幸寛

**【本店の所在の場所】** 東京都港区南青山七丁目8番4号

**【電話番号】** 03-5464-2380

**【事務連絡者氏名】** 経営企画室室長 桑原 亮介

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区南青山七丁目8番4号

**【電話番号】** 03-5464-2380

**【事務連絡者氏名】** 経営企画室室長 桑原 亮介

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第1四半期 連結累計期間	第42期 第1四半期 連結累計期間	第41期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	503,364	588,962	2,789,617
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	22,549	40,326	56,539
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 ( ) (千円)	19,496	79,292	26,481
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	21,067	85,106	20,025
純資産額 (千円)	781,195	907,353	829,076
総資産額 (千円)	1,229,778	1,630,295	1,642,434
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は四半期純損失金額 (円)	0.68	2.78	0.93
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.5	55.7	50.1

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第41期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、又、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。又、第42期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び第41期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業の設備投資や個人消費が力強さに欠け、景気は不透明な状況で推移しました。また、英国のEU離脱決定などもあり、先行きにつきましても不透明な状況が見込まれます。

このような状況下、当社が展開するレジャー事業では、経営理念である「ステークホルダーと共に」及びブランドスローガンである「ご来園者の笑顔のために」の元に、各運営施設の入園者数と売上確保に努めております。エンターテインメント事業では、継続してCM制作受注及びプロモーション受託に努めております。また投資事業では、引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。リスクマネジメントの観点から事業ポートフォリオの再構築についても適宜検討しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高5億88百万円（前年同四半期に比べ17.0%増）、営業利益36百万円（前年同四半期は営業損失23百万円）、経常利益40百万円（前年同四半期は経常損失22百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益79百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失19百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間の概況をセグメント別に申し上げますと次のとおりであります。

#### (レジャー事業)

伊豆シャボテン公園では、リスザルやワオキツネザル、マーラの赤ちゃんが誕生し、又新たにコツメカワウソなどの動物が仲間入りするなど、多彩な動物達が集客に努めました。

伊豆ぐらんぱる公園では、ナインボット、エアーホイールなど近未来的デザインの新感覚伝導二輪車に乗れる新アトラクション「モーターランドnorinori」がスタートいたしました。また、「グランイルミ」を8月末まで延長し、また“Special Thanks”キャンペーンとして、入場料を半額にするなどいたしました。

伊豆四季の花公園では、今回で10回目となる「城ヶ崎あじさいまつり」を開催し集客に努めました。

入園者数は328千人（前年同四半期に比べ6.2%増）、グランイルミへの入場者を加えると351千人となりました。

この結果、レジャー事業では、売上高5億81百万円（前年同四半期に比べ16.4%増）営業利益34百万円（前年同四半期は営業損失18百万円）となりました。

#### (エンターテインメント関連事業)

エンターテインメント事業では、CM制作による売上、プロモーション受託や当社が保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。

この結果、エンターテインメント事業では、売上高7百万円（前年同四半期に比べ107.1%増）営業損失12百万円（前年同四半期は営業損失17百万円）となりました。

#### (投資事業)

投資事業では、過去に投資した投資有価証券の売却や債権回収を図りましたが、新規投資による売上はありませんでした。

#### (その他)

当第1四半期連結会計期間におけるその他の事業につきましては、売上高はありませんでした。

( 2 ) 財政状態の分析

1. 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて49百万円減少し、4億23百万円となりました。これは主として、現金及び預金が91百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて37百万円増加し、12億6百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が41百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて12百万円減少し、16億30百万円となりました。

2. 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて73百万円減少し、2億94百万円となりました。これは主として、未払金が57百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて17百万円減少し、4億28百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて90百万円減少し、7億22百万円となりました。

3. 純資産

純資産合計は前連結会計年度末と比べて78百万円増加し、9億7百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の50.1%から55.7%となりました。

( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

( 4 ) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について、特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,496,537	28,496,537	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。 完全議決株式であり、権利内 容に何ら限定のない当社にお ける標準となる株式です。
計	28,496,537	28,496,537		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年6月29日 (注1)		28,496,537	355,091	100,000		186,500

(注1) 平成28年6月29日開催の定時株主総会において、資本金355,091千円を減少し、その他資本剰余金に振り替えることを決議し、その効力が発生いたしました。

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、該当事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等) (注1)	普通株式 20,300		
完全議決権株式(その他)(注2)	普通株式 28,218,200	282,182	
単元未満株式	普通株式 258,037		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	28,496,537		
総株主の議決権		282,182	

(注1) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

(注2) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が29,080株(議決権の数290個)含まれております。

(注3) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) (注)
伊豆シャボテンリゾート株式会社	東京都港区南青山7-8-4	20,300		20,300	0.07
	計	20,300		20,300	0.07

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、KDA監査法人により四半期レビューを受けております。



1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	340,953	249,555
売掛金	48,013	28,016
未収入金	6,131	7,438
商品等	15,652	40,878
繰延税金資産	50,642	75,408
その他	11,606	22,223
流動資産合計	473,000	423,520
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	690,695	732,149
土地	269,655	269,655
その他	157,522	156,828
有形固定資産合計	1,117,873	1,158,633
無形固定資産		
ソフトウェア	10,231	9,393
無形固定資産合計	10,231	9,393
投資その他の資産		
投資有価証券	8,128	5,036
長期化営業債権	13,024	13,024
破産更生債権等	754	754
その他	33,200	33,711
貸倒引当金	13,778	13,778
投資その他の資産合計	41,328	38,747
固定資産合計	1,169,434	1,206,774
資産合計	1,642,434	1,630,295

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	38,371	24,786
未払金	213,710	155,917
前受金	42	71
預り金	19,120	18,758
未払法人税等	32,966	35,915
賞与引当金	16,814	25,995
その他	46,904	33,195
流動負債合計	367,931	294,641
固定負債		
退職給付に係る負債	128,924	125,096
偶発損失引当金	272,564	272,425
その他	43,938	30,777
固定負債合計	445,427	428,299
負債合計	813,358	722,941
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	455,091	100,000
資本剰余金	186,500	425,508
利益剰余金	198,388	393,738
自己株式	11,918	11,893
株主資本合計	828,062	907,353
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,813	-
その他の包括利益累計額合計	5,813	-
新株予約権	6,827	-
純資産合計	829,076	907,353
負債純資産合計	1,642,434	1,630,295

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	503,364	588,962
売上原価	190,494	210,489
売上総利益	312,870	378,472
販売費及び一般管理費	336,404	341,825
営業利益又は営業損失( )	23,533	36,647
営業外収益		
受取利息	15	0
受取賃貸料	325	3,058
受取手数料	210	212
その他	701	618
営業外収益合計	1,253	3,890
営業外費用		
支払利息	-	30
敷金償却	270	-
その他	-	181
営業外費用合計	270	211
経常利益又は経常損失( )	22,549	40,326
特別利益		
固定資産売却益	57	2,410
新株予約権戻入益	-	7,586
受取保険金	4,204	21,855
債務免除益	1	-
特別利益合計	4,264	31,851
特別損失		
投資有価証券評価損	3,598	8,906
その他	-	0
特別損失合計	3,598	8,906
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	21,884	63,272
法人税、住民税及び事業税	463	8,746
法人税等調整額	2,851	24,766
法人税等合計	2,388	16,020
四半期純利益又は四半期純損失( )	19,496	79,292
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	19,496	79,292

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	19,496	79,292
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,571	5,813
その他の包括利益合計	1,571	5,813
四半期包括利益	21,067	85,106
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,067	85,106
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における四半期連結財務諸表への影響額は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

連結子会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
スイート・ベイジル(株)	119,358千円	118,359千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
減価償却費	17,702千円	30,433千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	455,091	186,500	198,388	11,918	828,062
当第1四半期連結会計期間末までの変動額					
資本金の取崩	355,091	355,091			
その他資本剰余金からその他利益剰余金へ振替		116,057	116,057		
親会社株主に帰属する四半期純利益			79,292		79,292
自己株式の取得				4	4
自己株式の処分		25		29	3
当第1四半期連結会計期間末までの変動額合計	355,091	239,008	195,349	24	79,291
当第1四半期連結会計期間末残高	100,000	425,508	393,738	11,893	907,353

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	エンター テイメント 事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	499,897	3,452	-	503,350	14	503,364	-	503,364
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	29	16	30,300	30,345	9,000	39,345	39,345	-
計	499,926	3,469	30,300	533,696	9,014	542,710	39,345	503,364
セグメント利益又は 損失( )	18,848	17,145	19,414	16,578	6,955	23,533	-	23,533

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 売上高の調整額 39,345千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	エンター テイメント 事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	581,813	7,149	-	588,962	-	588,962	-	588,962
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	244	1,010	30,300	31,554	9,000	40,554	40,554	-
計	582,057	8,159	30,300	620,517	9,000	629,517	40,554	588,962
セグメント利益又は 損失( )	34,998	12,600	15,378	37,776	1,128	36,647	-	36,647

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 売上高の調整額 40,554千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	0円68銭	2円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	19,496	79,292
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	19,496	79,292
普通株式の期中平均株式数(株)	28,476,510	28,476,158
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 第41期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、又、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。又、第42期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

当社連結子会社における訴訟の和解の合意について

当社の連結子会社である株式会社伊豆シャボテン公園(以下「ISP社」という)は、平成28年8月8日に、静岡地方裁判所沼津支部より、ISP社の保有不動産(以下「対象不動産」という)に対する競売開始決定の通知を受けました。今回の競売開始決定通知の対象不動産はISP社が保有するぐらんぱる公園等の土地・建物であり、シャボテン公園部分は含まれておりません。

本競売開始決定通知は、平成28年5月12日「当社子会社における和解内容に関する新たな合意に関するお知らせ」にて開示した、株式会社ケプラムとの間で締結した新たな合意書に記載された合意内容に基づくものであります。

なお、当社グループは、当該発生可能性を考慮し、前第2四半期連結会計期間におきまして、ISP社保有の土地・建物に対して、偶発損失引当金を計上いたしております。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月15日

伊豆シャボテンリゾート株式会社  
取締役会 御中

KDA監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 毛利 優 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 園田 光基 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊豆シャボテンリゾート株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、伊豆シャボテンリゾート株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象には、当社の連結子会社である株式会社伊豆シャボテン公園は、平成28年8月8日に、静岡地方裁判所沼津支部より、株式会社伊豆シャボテン公園が保有するぐらんぱる公園等の土地・建物に対して、競売開始決定の通知を受けた旨の記載がある。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。